

Japanese In NY (ニューヨーク生活)



Photo: Tokyo Restaurant

《東京レストラン》

今年の4月末に一通の手紙が届いた…。今からちょうど20年前にニューヨークに渡った時、マンハッタンに入って最初に訪れたのが、有名なグランド・セントラル駅から程近く、レキシントン・アヴェニュー沿いの39丁目と40丁目の間にあった『東京レストラン』という店だった。

その店のオーナーは古平さんという方で、この方がいなかったら、その後4年間もニューヨークで生活することはできなかっただろう。自分にとってはニューヨークでお世話になった大切な恩人の1人だった。手紙は古平さんからで、4月18日をもって『東京レストラン』を閉店したという知らせだった。

また、20年前の3月31日。JFK空港まで出迎えて頂き、自宅に一晚泊めて頂いたのは、当時単身赴任でニューヨークに勤務していた高野さんという方だった。高野さんさんも自分にとって大切な恩人の1人で、古平さんとも顔見知りという仲

だったことで、翌日高野さんに車で『東京レストラン』まで送って行ってもらい、古平さんに会わせてもらったのが始まりだった。

ニューヨーク、マンハッタン、右も左も分からない単なる若僧だった自分にとって、古平さんも高野さんもダンディな大人の雰囲気漂っていた。生活必需品を押し込んだダンボール箱1つとスポーツバックを店内に置かせてもらい、バーのカウンターに座って緊張気味に古平さんと会話をしたことがつい昨日のように思い出される。そして、当時その『東京レストラン』のバーで働いていたマキさんという方が、その後丸4年間住むことになるアパートの部屋を見つけてくれていた。また、そのアパートには当時同じく『東京レストラン』でウェ이터をしていたジャズ・ベーシストの北川さんという方も住んでいて、北川さんにも大変お世話になった。そして、その後レッスンを受けることになったジャズ・ベーシストの藤原さんも『東京レストラン』のお客さんで、毎週『東京レストラン』の裏手にあった藤原さんのアパートまでウッドベースを担いで通ったことも今では懐かしい思い出だ。

自分がウェ이터をしながら生活費を稼ぐことになる店は、この『東京レストラン』とは別の『コダマ・レストラン（現在は「こだますし」）』という店だったが、全てこの『東京レストラン』でのご縁がなければ、何も始まらなかったし、皆さんの助けがなければ、滞在1ヶ月ももたず、早々に日本に引き上げる羽目になっていたかもしれない。本当に今でも頭が上がらない気持ちだ。

『コダマ・レストラン』でウェ이터として働き始めてからは、『東京レストラン』にはたまに顔を出す程度になってしまったが、いつも心の何処かで「古平さんに迷惑がかかるようなことがあってはいけない」「頑張っって古平さんに認められるようになりたい」という気持ちがあったと思う。それから4年後、日本に引き上げなければならなくなった時も古平さんに挨拶をしに『東京レストラン』を訪れたが、感謝の気持ちと共に夢半ばで引き上げるようになってしまった悔しさと恥ずかしさも感じていた。

帰国後は毎年クリスマス・カードで連絡を取るだけになってしまい、あれから一度もお会いしてはいないが、自分にとってニューヨークに渡った時の夢の続きでもあるこの『The Walker's』を創刊号から送らせてもらっている。この雑誌も古平さんをはじめ、ニューヨークでお世話になったたくさんの方々存在なくては誕生しえなかったと思っている。

『東京レストラン』が開店したのは1969年。44年間の暖簾を下ろす決断をされた古平さん。『東京レストラン』がなくなってしまうことは寂しい限りだが、この場を借りて、ニューヨークでの感謝の意を届けたいと思っています。